

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9番14号		
自己評価作成日	平成22年 7月 23日	開設年月日	平成15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりに合った生活が送れるように支援するようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 22年 8月 20日	評価結果決定日	平成 22年 9月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭の木々が四季折々に映し出す風景は我が家を思わせる和みの空間となっています。今年は初めて野菜作りや夏祭りに取り組み、地域との触れ合いが深まっています。小規模多機能型居宅介護事業所、グループホーム(西の家・南の家)が同敷地内にあり、「くつろげる関係作り」を共通目標に、生き生きと過ごすことが出来るようその人らしさが継続されるケア作りを大切にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し取り組むよう心がけている。ミーティング、会議で確認し合っている。	「ほっとくつろぐ居場所・その人らしく大切な暮らしを共に支える」職員全員で理念を確認し合いながら日々のサービスに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物などに出掛け挨拶を交わしている。また、畑を借りて野菜作りをする事により、広い範囲での交流が図れるようになった。	小学4, 5年生の「やさしさ探し」の訪問や初めての野菜作りを通し、行き交う人たちとの触れ合いも多くなっている。法人全体として初めての「夏祭り」を控え、地域の人たちとの繋がりを少しずつ広げ努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には限定していないが、随時電話や見学者が見られた際は認知症の相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や情報交換を行い、話し合いを通じて会議のメンバーより意見をもらっている。サービスの向上に具体的に活かすようにしている。	運営推進会議は隣接している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的に行なっている。現状報告やサービスへの要望、今後の課題等と意見交換があり、職員とは報告書や毎日のミーティング等で唯地に話し合い共有を図りサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない時は電話や直接相談に行くなどして対応している。	市の集団指導等日々の業務を通じた意見交換や報告、相談等を行ない日頃より関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員がいち早く利用者の気持ちや状況を考慮するようにして、日々のケアを振り返っている。	毎日の危機予知を気づきに活かしながら、デスクッション、ミーティング等で勉強会に繋ぎ、意識を高め安全確保に取り組んでいる。「言葉」での身体拘束をしていないか精神面への関わりにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待そのものが発生しないよう、ミーティングや会議で話し合ったり注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に資料提供し、そういったケースがあった際対応できるように説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・または本人へ説明を行い、理解・納得を得た上で同意してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で要望・意見を聞くようにしている。随時職員へ伝達し、日々のケアに活かしている。	家族や利用者が参加する運営推進会議の場や面会・プランの見直し時等に話し合いを行ない意見、要望等を運営に反映するよう努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は共に職員の要望や意見を聞くよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が良い雰囲気の中で働けるよう、多方面から職場環境作りを考えてくれている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内外の研修に参加できる機会を設けている。働きながらでも資格取得できるよう全面的に協力している。	グループ協議会での交換研修や日常的に困難な事例を取り上げディスカッションし、一つひとつの場面をスキルアップに繋げ、資格取得にも目標を掲げ協力的な取り組みが進められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会があり、その中で交換研修や職員研修を設けて質の向上を目指している。	県、市、ブロック別とそれぞれに研修があり近隣事業所との交流、相互訪問等を行なっている。研修で得た情報を活かしサービスの質向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前と変わらない生活リズムを確保し、本人の質問や寂しさなどないよう会話をして安心を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と情報交換を密に行い、気になるような事がなにか傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からみて大変そうでないように見える事も、行動をみて早めに相談し対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意に反しないようにし、介助したり手伝うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家にいる時のように家族と共に本人を支えられるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人・友人の方が今までのように訪ねて来てくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には困難なケースも存在するが、職員の介入やフォローによって利用者同士の関係や関わり合いが良好に保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や手紙などのやり取りで留まっている事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声がけなど関わりの中で、利用者それぞれの希望や意向を聞いたり、反応を見るなどして把握するよう努めている。	日々の暮らしの中で会話や表情から希望の把握に努めている。気持ちを理解しさりげなく接するよう職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わり、対話の中から、よりその人の事を知る事ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中で利用者それぞれの心身状態の変化を把握し、それに沿った支援を行うよう努めている。また、日々の関わりで「気づき」が増えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の意向・要望を聴き話し合いを持っている。より良い支援ができるよう計画作成を行っている。	利用者の思いや家族等の意向、意見を聞きながら日々のミーティング等で話し合いをしている。職員の日頃の気づきや状況変化に応じカンファレンス・モニタリングを行ないその都度見直した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を実施し、職員間で情報の共有ができています。実践や介護計画への反映は取り組んでいるが、よりいっそう努力したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「なのか」「ヨークベニマル」「畑」などでそれぞれ歌会・買い物・家庭菜園を行い、楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医との信頼関係を大切にし事業所との連携の下通院支援をしている。	かかりつけ医とは予め予約を取り、待ち時間やトイレ誘導等の関わりに注意を払いながら主に職員が付き添いしている。受診を拒む場合等状況により往診に切り換え、その時々々の身心状況に合わせ柔軟な受診支援に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を密にし、常に情報交換を行い利用者の健康管理や通院支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ短期間で入院目的を達成しスムーズな退院につながるように、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の段階で事業所としての方針の説明を行っている。本人や家族の意思を踏まえ取り組んでいきたい。	事業所として出来得ることを主治医や看護師に相談、指示を仰ぎながら、家族等と話し合い連携を図り、対応方針を共有しながら支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を掲示し周知している。また、年1～2度応急手当の講習会も行っている。実践時に活かせるよう今後も各人スキルアップに努めたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備え防火管理者の指揮の下年に1～2回訓練を行ったり、地域の災害訓練に参加したりしている。	春に夜間を想定した訓練を職員だけで行ない、11月頃に利用者を含む訓練を計画中である。災害に備えた水や食料品等の非常用備品を準備している。		職員だけの誘導には限界があり近隣住民との協力が是非とも不可欠である。避難訓練等への参加、協力を今後も引き続き呼び掛けると共に防災への取り組みの理解を深め、尚一層協力体制を築かれるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から個人の人格を尊重すると共に、自尊心を損ねないよう配慮に努めて支援している。	「個人情報・個人尊重」については十分に意識を持ち理解に努めている。利用者の思いを大切にさりげなく自然なケアに努め、日頃のケアの見直しをロールプレー等で確認し合い研鑽している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常の個人との関わりの中で、本人の思いを聞きながら支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活を送る上で、難しい時もあるが、個人の希望に沿った支援となるよう日々努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を聞きながら、身だしなみ支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見も反映できるよう利用者と話しながらメニューを決めたり、外食などで普段とは違った雰囲気の中で楽しく食事ができるようにしている。一人ひとりができる事を職員と協力し配膳等行っている。	昼食は法人内の厨房で調理されるが朝夕は各ユニットで作っている。料理、配膳、食器だし、テーブル拭き等自然に一人ひとりの役割ができ「我が家の食事風景」そのものである。初めて収穫されたなす、きゅうり等の「自給された旬の素材」を売りに食を楽しむものに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせて量をチェックし水分補給の把握と共に個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導し口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にトイレ誘導し、各人に合わせた排泄パターンに沿った支援をしている。	日中や夜間等の関わりに一人ひとりのリズムを掴み、職員は排泄のサインを共有している。さりげない言葉かけに留意しプライバシーの配慮や安全面等に使いやすく工夫し、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・水分・食事量やバランスに注意している。必要な方はDrと相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に沿った入浴回数や時間帯を設定して支援している。	入浴時間等は利用者の希望に合わせて、職員の見守りのなか柔軟に対応している。拒む場合等は声掛けのタイミングや「温泉に行こう」と外に出る機会を作り、入浴を楽しめるよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なごやかな雰囲気の中で季節に合った飲み物を提供したり、安眠されるような声掛けをしたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングしており、内容が変わった際は申し送りノートに書いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し等の家事、読書や歌等の趣味というように、個人のやりたい事できる事に合わせてその時に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望を優先して近所を散歩したり、ドライブに行く事は日常的に行えている。予めどこに行きたいか希望を聞いて計画を立てドライブ先で弁当を食べたり、外食に出掛ける等の支援をしている。	利用者の希望に合わせてその都度散歩や買い物に出かけている。季節の行楽行事、ドライブや毎月楽しみにしている外食等の他に野菜の収穫や中庭を利用したティータイム等五感を刺激する外出の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族か本人自身が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった時には電話・手紙を使って連絡を取っていただけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示や展示物を居間や廊下に置いて居心地良く過ごせるよう工夫している。共用の空間はいつも清潔に快適であるよう、清掃や室温・湿度の確認等行っている。	季節を感じる中庭の空間がとても心地良く、音や光等で不快を感じることなく穏やかな生活の場となっている。手洗い、消毒等を常に励行し感染症対策にも配慮し、自分をアピール出来る手作りの作品等をホールに掲示し家庭的な雰囲気醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々で近くに座ってもらえるよう、椅子・テーブルの配置換えは随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいう個々に合わせた家具の配置をしている。好みの物を置いたり、掲示したり可能な限り自由に行えるよう支援している。必要だと思う時は家族に相談している。	居室には、その人らしく自宅での暮らしに近い環境にするために使い慣れた思い思いのものが置かれている。毎日の生活を快適に清潔に過ごせるよう、室温調整や特にベット等の床清掃には細心の心配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な安全設備は置かず、一人ひとりのできる事に合わせた快適な環境作りを行っている。		